

日本の温泉

その歴史と文化



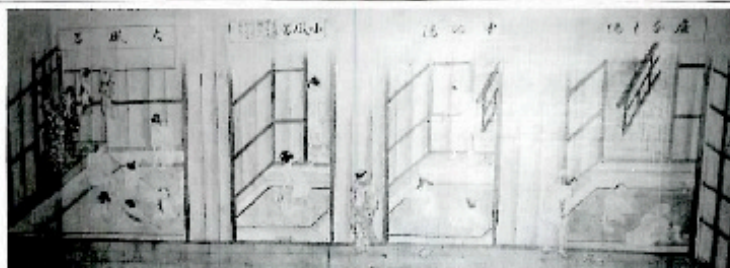


「さる」も親子でつかる（長野の温泉）



日本の温泉「首までつかってゆったしと」

道	現代：庶民の湯治（自然治癒力＝非特異的薬調作用） 伝統と近代医学の共存をめざして プラス志向のラインスタイル
	明治以降：湯治の隆盛（上流階層から庶民へ） 西欧の温泉医学の紹介、見聞、導入 世俗化 ↑ 専断化 商業化 ↑ 遊興化
俗	江戸時代：中国の「本草綱目」、宣明五氣論 湯文、一本堂薬選続編、 養生訓（老荘思想、儒教）
	平安・鎌倉・室町・戦国時代： 中田思想（陰陽五行説、十干十二支運行説） 湯治における＜氣＞思想の日本化
型	奈良時代：仏教、湯室教、大湯屋、湯雜耶、施浴 湯治の習慣、 神仏習合（温泉神社、薬師堂） 庶民の湯治（骨休め）
	農耕時代：神話における医療と温泉の神（大己貴命・少彦名命） 禊としての湯、探湯、湯立神事
	縄文時代：森の文化（共生と繁殖）、アニミズム、 湯＝自然＝神靈、鳥獣伝説、など
	日本の風土：火山と水、モンスーン（春の新緑、夏のむし暑さ、秋の紅葉、 冬の寒さ、など）、 世界一の温泉分布



江戸の湯治（沢田秀二郎撮影、上湯の枝折、pp.52-53所収）



星湯大の寺大東 圖九十第



13 ◎大仏縁起絵巻 奈良 東大寺





- 本館には2種類5つの浴室があります。
- 広々とした「神の湯」とちよっとこぶりの「霊の湯」。
- 「神の湯」は地元の常連さんたちが多く、「霊の湯」では観光客が天下の名湯を楽しんでいます。
- 壁の陶版や湯釜など、それぞれの浴室で見どころがいっぱい。
- 源泉掛け流しの温泉をどうぞ。

■ 神の湯(かみのゆ)



男子西浴室

- 広くて明るい浴室。
- 男湯は二つあり、その日の気分や空さぐあいで好きなほうを選べます。
- 女湯は真ん中に浴槽があるゆったりとした造りです。



男子東浴室



- 本物を見られるのは残念ながら男の人だけ。
- 夏目漱石の小説「坊っちゃん」ゆかりの木札です。



女子浴室



- 古代から源泉が湧き出していた「第1号源泉跡」。
- 神の湯男子東浴室にあります。

■ 霊の湯(たまのゆ)

- 神の湯に比べると小さいけれど、浴槽に磨治石や大島石、壁には大理石を使うなど、つくりは贅沢。
- 静かに「道後の湯」を楽しみたい人にオススメです。



男子浴室



女子浴室





1. 箱根七湯 (箱根町立郷土資料館所蔵)



大津草津泉全圖







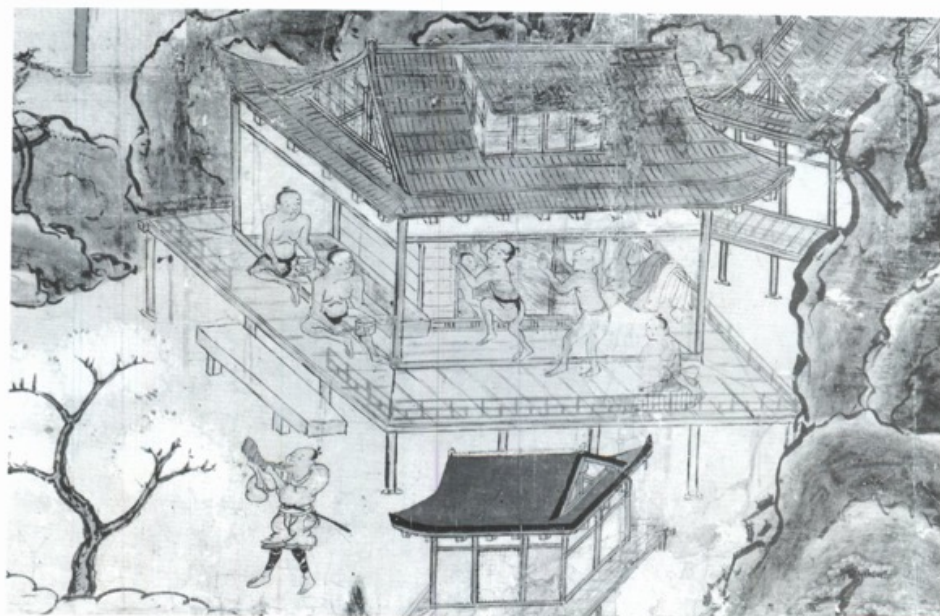






17 施福寺参詣曼荼羅 (部分)

大阪 施福寺



18 施福寺参詣曼荼羅 (部分)

大阪 施福寺



女風呂

寛政の改革（一七八七〜九三年）以前の江戸の銭湯は、すべて混浴であったといわれている。混浴のために起こった風俗事件は報告されていないが、昼でも薄暗い浴槽の中で裸の男女が多数入浴しているわけで、何もなかったはずはない。

混浴はいやだという女性の声もたかまって、平常は混浴営業をしていた銭湯が、毎月の特定の日を定めて、女性専用日の営業を始めるようになった。

享保十八年（一七三三）に、この頃の江戸の評判になった物事を主題として『名物鹿子』という絵発句集が出版されている。

その中に「大黒屋女湯」の言葉が見え、下男をつれて女湯へ行く

富豪の内儀の図があることから、当時、女湯のあったことがわかる。

また、宝暦頃（一七五〇年代）の『江戸真砂六十帖』には、諏訪町の豪商、福田屋の後家が、下女一人、小坊主一人をつれて堺町付近の女風呂へ通ったという記事がある。

江戸時代の後家とは、今の未亡人を意味するだけでなく、戸主としての権利と義務を履行した女主人をさす言葉でもあった。

そんな記事から推測すると、初期の女風呂の入浴料は、混浴の銭湯よりも高かったと思われる。

肌競花の勝婦湯
番台におひねりを渡す女、膝袋をくわえた女、水を汲む女、三助に背中を流させる女、立っている湯汲み男、柵欄口や寄席広告など、江戸末期の女湯のほぼ全貌が判る絵である。

豊原国周画



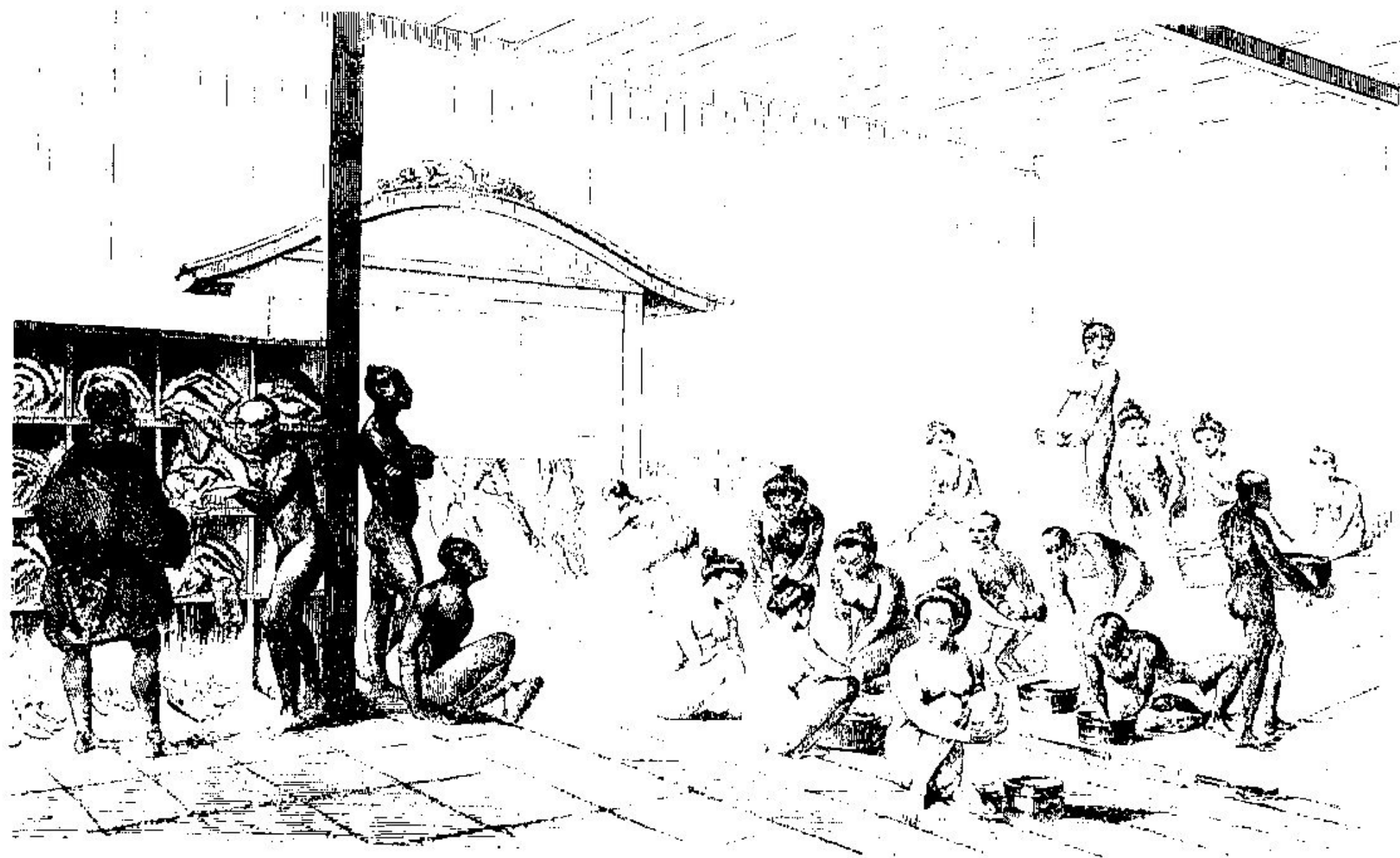


湯上がり

入浴後は血行もよく気分も爽快で、女性性が最も美しく見える時である。浮世絵の画題としても多く、いずれもあぶな絵的な好色趣味が顕著である。

歌舞伎や『太平記』でもお馴染み、高師直が塩谷判官の妻に横恋慕！その美しい湯上がり姿を盗み見、因という説もある。

浴後の女性の肌はピンク色で美しい。そんな女性を描いた絵。鬼貫の「行水のすて所なき虫の声」の句が添えてある。磯田湖竜齋画





夏の女湯風景 明治中期の女湯を描いたもの。もはや柵欄のない開放的な構造になっている。この絵を描いた五姓田義松は、明治時代の画家で父芳柳からオランダ絵を学び、京に住んで洋画手法でこれを描いた。東京のどこかの銭湯であろう。五姓田義松画



万座通いの横馬 軽井沢から草津電気鉄道で石津平駅へ、ここから約16km横馬（当時2円）で万座温泉へ行く、ゆっくりした湯治行だった。昭和初期。

写真8 万座通いの人馬（昭和初期）





写真14. 法師温泉(筆者撮影)



写真15. 別府 温泉保養ランド・ドロ湯(筆者撮影)



写真16. 福島県いわき市谷地鉾泉(筆者撮影)



写真17. 山形蔵王温泉・川原湯共同浴場(筆者撮影)



写真18. 玉川温泉・日本一の大噴^{おちふけ}（筆者撮影）



写真19. 玉川温泉・岩盤オンドル（筆者撮影）



写真20. ^{ワニ}夏油温泉・洞窟の湯（筆者撮影）



写真21. 夏油温泉・観光ホテル大浴場（筆者撮影）



写真22. 福島県 野地温泉・千寿の湯 (筆者撮影)



写真23. いわき市 スパ・リゾート・ハワイアンズ 古代木會風B (筆者撮影) 226



写真20. ^{リニヒ}夏油温泉・洞窟の湯 (筆者撮影)



写真21. 夏油温泉・観光ホテル大浴場 (筆者撮影)



50 鉄砲風呂 滋賀 栗東歴史民俗博物館

